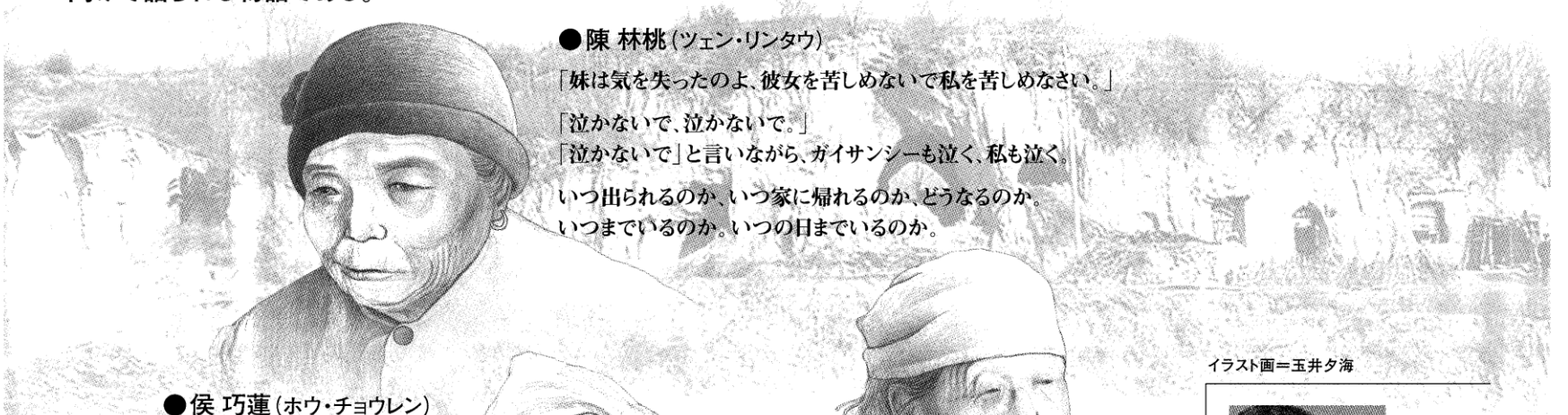
2020年1月28日（火）18時～20時30分 / 東京大学山上会館大会議室（本郷キャンパス）

※17時30分～
受付開始

**（蓋山西とその姉妹たちの不幸な戦争体験を公表する。
彼女たちの血と涙で刻まれた歴史と、そして現状に関心を寄せ、
“尊厳”と“愛”を与えるよう心から希望する）**

［作品解説］山西省一の美人を意味する「蓋山西（ガイサンシー）」と呼ばれた、侯冬娥（コウトウガ）。その呼び名は、彼女の容姿のことだけでなく、同じ境遇に置かれた幼い“姉妹たち”を、自らの身を挺してまで守ろうとした、彼女の優しい心根に対してつけられたものであり、その後の彼女の人生の悲惨を想ってのものだった。「蓋山西（ガイサンシー）」という名は、やがて山西省の人びとの間で、人間の尊厳を表す言葉となる。この映画は、班忠義監督が9年の歳月をかけ、中国の大地に侯冬娥（コウトウガ）と、運命を同じくした女性たちの姿を追い続けたドキュメンタリーである。幼くして人生の全てを奪われた女性たちの、現在の記録であり、同時に、私たちの明日に向けて語られる物語である。



●陳 林桃（ツェン・リンタウ）

「妹は気を失ったのよ、彼女を苦しめないで私を苦しめなさい。」

「泣かないで、泣かないで。」
「泣かないで」と言いながら、ガイサンシーも泣く、私も泣く。

いつ出られるのか、いつ家に帰れるのか、どうなるのか。
いつまでいるのか。いつの日までいるのか。

●侯 巧蓮（ホウ・チョウレン）

話したり笑ったり
時に泣いたり歌ったりする

母は私が鬼に魂をうばわれたと思って
昼も夜も呼び戻しに出かけた

●李 秀梅（リ・シュウメイ）

ガイサンシーは私に泣いて言った
「私はどう生きられるのだろうか」

ガイサンシーは最後に言った。
「医者にみせるお金もない　薬も買えない」
「苦しさに耐えられないのよ　死ぬほかはないね」

イラスト画＝玉井夕海

書籍「ガイサンシー《蓋山西》とその姉妹たち」絶賛発売中!

映画では描ききれなかった貴重な証言を多数収録。班忠義監督の「ガイサンシー」を巡る9年の旅の全てがここにある。

班忠義著　定価:2,800円+税
発行:梨の木舎（TEL 03-3291-8229）

［監督の言葉●班忠義（ハンチュウギ）］

1992年、東京のある集会で日中戦争当時旧日本軍から性暴力を受けたという中国人女性の証言と身体に残された傷跡に、私は衝撃を受けた。日本人残留婦人との出会いから戦争問題に関心を持ってきた私は、95年国会での「不戦決議」の戦争認識に危機感を持ち、日中戦争の事実を知るため山西省の黄土高原に広がる貧しい農村に足を踏み入れた。しかし私の会いたかった「蓋山西（ガイサンシー）」と呼ばれた女性はすでに自ら命を絶ってこの世を去っていた。
それから10年、毎年山西省を訪れ、蓋山西と同じように性暴力を受けた女性達と関わっていく過程で、当時の体験を思い出す恐怖でときに体を震わせながら彼女達は一生懸命カメラを通して私に訴えはじめた。戦後も半世紀以上差別や貧困、病気、恐怖のために明らかに出来なかった自らの過去に彼女達ははじめて向き合い、怒り、悲しみ、悔しさを語った。その後取材を通して出会った元日本兵は、加害の事実に、ある方は淡々とある方は悔悟の涙を流して向き合ってくれた。
戦争体験を伝えること、国を越えてそれを共有することは戦後60年も過ぎて難しいことだ。しかしだからこそ二度と悲惨な戦争を繰り返さないために想像力を持ってお互いに歴史に向き合う、平和を守ろうとする人達とその共同作業を一緒にしていくのが20年近く日中を行き来してきた私に出来る事だと思っている。

蓋山西 ガイサンシーとその姉妹たち

製作:山上徹二郎、班忠義／監督・撮影:班忠義／編集:甘文輝、ジャン・ユンカーマン／音楽演奏:盂県民間楽隊［長編ドキュメンタリー／ビデオ／カラー／80分／2007年シグロ作品］

ASNET主催 映画シンポジウム 入場無料・予約不要

アジアを知る －『ガイサンシーとその姉妹たち』（シグロ/2007年/80分）上映会 & 班忠義監督講演 －

お問い合わせ：asnet@asnet.u-tokyo.ac.jp

ASNET
東京大学
日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
Network for Education and Research on Asia